

円照寺の銅鐘

えんしょうじのどうしょう



文化財愛護シンボルマーク

| | | | |
|-------|--------------------------------|-------|----------------------|
| 名称 | 円照寺の銅鐘 | 所在地 | 志方町広尾 1029 番地 |
| 別称 | 上野八幡宮の銅鐘、志方八幡神社の銅鐘、妙正寺（蓮光坊）の銅鐘 | 所有者 | 円照寺 |
| 数量 | 1 口 | 指定 | 加古川市指定文化財 |
| 寸法 | 高さ 97.4cm、口径 58.4cm | 指定分類 | 工芸品 |
| 材質・技法 | 青銅 鑄造 | 指定名称 | 銅鐘 |
| 時代 | 室町時代 明応 7（1498）年 | 指定年月日 | 平成 3（1991）年 10 月 1 日 |



円照寺の銅鐘

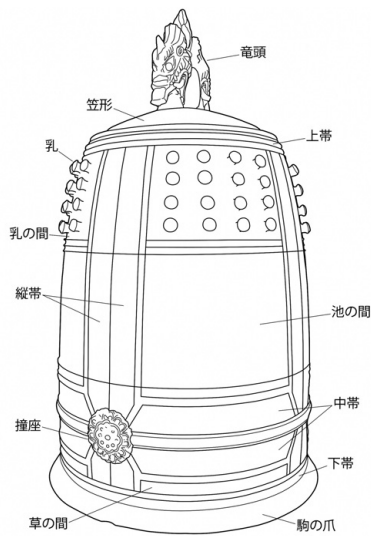
この銅鐘は、志方町広尾に所在する円照寺境内の鐘楼に吊るされている梵鐘です。梵鐘とは、寺院で用いられる仏教法具のひとつで、法会の各場面や時刻を知らせる場面などにおいて使用されます。

この鐘には計71文字の銘文が池の間に刻まれており、その詳しい来歴を知ることができます。

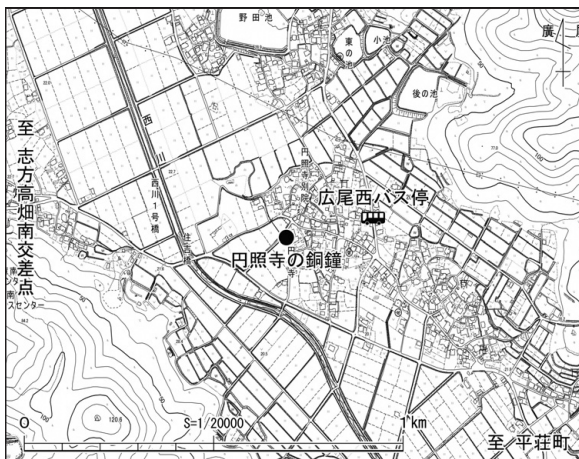
銘文によると、この鐘はかつて「周防国（現在の山口県東部）」の「上野八幡宮」にあったこと、「明応七（1498）年」に「朝日道重」が大願主となって、高僧の「宥椿」が勧進し、「大和相秀」によって制作されたものであることなどがわかります。

大和相秀は、戦国時代初期に活躍した周防国防府出身の鋳物師です。相秀によって制作された梵鐘は現在6例確認されていますが、現存しているものは円照寺の鐘1口のほか、沖縄県の旧円覚寺殿前鐘・殿中鐘の計3口のみです。

それではなぜ、かつて周防国にあった鐘が播磨国、それも現在の加古川市にあるのでしょうか。その経緯



円照寺の銅鐘略図及び各部名称



〔第一区〕
周防国富田保
上野八幡宮
明応七年甲辰四月廿三日己丑
大願主朝日道重
延次采女允生年六十一歳

〔第二区〕
勧進阿闍梨宥椿
大工大和相秀
諸行無常
是生滅法
生滅々已
寂滅為樂

銅鐘銘文

緯については、円照寺のほか、志方八幡神社（志方町志方町）と妙正寺（志方町横大路）にいくつかの伝承が残っています。

いずれの伝承も豊臣秀吉の陣鐘であるという点で共通していますが、秀吉が当地に鐘を置いていった経緯や最終的に円照寺に至った経緯など、その内容には若干の相違がみられます。この鐘が元々周防国の上野八幡宮の鐘であったことなどから考えると、織田氏と毛利氏の戦いである天正年間の「中国攻め」の際、何らかの理由で秀吉がこの鐘を入手し、その帰途、当地に置いていったものである可能性が高いと考えられます。

このように、円照寺の銅鐘は、制作年代と制作者がはっきりわかる資料として重要というだけでなく、円照寺に至った経緯を含め、たいへん興味深いものといえるでしょう。（文・写真／平尾）

●参考文献

- 兵庫県印南郡 1916『増訂印南郡誌』兵庫県印南郡志方町誌編纂委員会
- 1969『志方町誌』志方町坪井良平
- 1970『日本の梵鐘』角川書店
- 上月昭信 2001「加古川市志方町広尾の円照寺梵鐘について」『東播磨』第8号 東播磨地域史懇話会

●キーワード

円照寺 梵鐘 銘文 周防国 上野八幡宮 明応七年 朝日道重 宥椿 大和相秀 鋳物師 円覚寺 殿前鐘 殿中鐘 志方八幡神社 妙正寺 豊臣秀吉 陣鐘 中国攻め

●所在地／兵庫県加古川市志方町広尾 1029 番地

- 交通／公共交通の場合、かこバスミニ志方東ルート「広尾西」バス停から西へ徒歩5分
- 車の場合、加古川北ICから南東へ約2km
- ※円照寺専用駐車場あり